



2022年12月期 第2四半期  
**決算説明資料**

株式会社sMedio

(東証グロース：3913)

2022年8月12日

本資料の複写、転用はしないで下さい

- 連結業績ハイライト ..... 4
- 連結決算概要(PL) ..... 5
- 連結決算概要(BS) ..... 6
- 事業ハイライト ..... 8
- Kiwi Tech社との資本業務提携 ..... 9
- 通期業績予想と第3四半期以降の取り組み ..... 10
- 本資料の取り扱いについて ..... 11

2022年12月期  
第2四半期  
決算概要

## ◆売上高は、前年同期比6百万円増の417百万円。

⇒当第2四半期(1-6月)では、新規の保守・サポート契約による増収が寄与。

## ◆営業利益は、前年同期比9百万円増の11百万円。

⇒主な増益要因は、売上高の増収。

## ◆最終利益は、21百万円（前年同期は11百万円の赤字）。

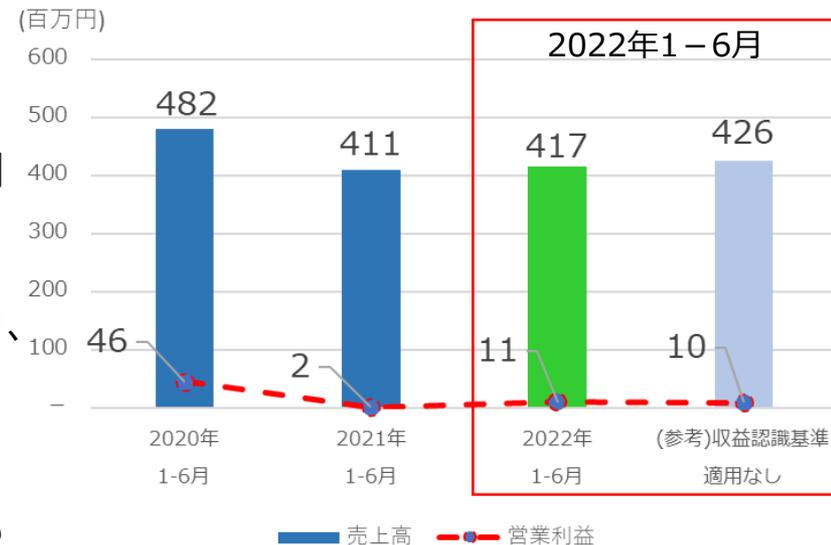
### ～収益認識に関する会計基準適用による影響～

⇒ロイヤリティ収入の計上月が、従来に比べ早くなりました。

（四半期の初月に売上計上していたものが、前四半期の最終月に売上計上になる。）

この影響は、全体として、売上高等を減少させており、従来の会計方針を適用していれば、右表の(参考)収益認識基準適用なしに示したとおり、売上高は426百万円、営業利益は10百万円であります。

また、売掛金等の債権債務の増加や仕掛品の減少にも影響を与えております。



# 連結決算概要 (PL)

単位：百万円

	2020年 1-6月	2021年 1-6月	2022年 1-6月	前年同期比	
売上高	482	411	417	6	1.5%
売上原価	204	195	195	△0	△0.1%
売上原価率	42.3%	47.5%	46.8%	△0.8p	
売上総利益	278	215	222	6	3.0%
販管費	231	213	210	△2	△1.2%
営業利益	46	2	11	9	396.9%
営業利益率	9.7%	0.6%	2.7%	2.2p	
営業外収益	0	4	20	15	309.3%
営業外費用	0	0	-	△0	△100.0%
経常利益	46	7	31	24	337.0%
特別利益	-	-	-	-	
特別損失	1	-	-	-	
税金等調整前四半期純利益	45	7	31	24	337.0%
法人税等	21	18	9	△8	△47.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	24	△11	21	33	

(売上高) 新規の保守・サポート収入が寄与し、売上高は417百万円となりました。

(営業利益) 増収に加え、のれん償却費の減少があった半面、研究開発費が8百万円増加（来年度以降の採用を目指した4K/8K高解像度関連製品）したことで、販管費全体は微減にとどまり、営業利益は11百万円となりました。

(経常利益) 為替差益を19百万円計上したことで、経常利益は31百万円となりました。

# 連結決算概要 (BS)

単位：百万円

資産	2020年 12月末	2021年 12月末	2022年 6月末	前期末比
現金及び預金	806	570	687	116
売掛金	73	45	163	118
仕掛品	18	30	9	△20
原材料及び貯蔵品	257	520	495	△25
その他	16	21	24	2
流動資産合計	1,172	1,189	1,380	191
有形固定資産	18	15	15	0
ソフトウェア	9	5	5	△0
のれん	17	1	-	△1
その他	2	1	1	△0
無形固定資産合計	28	8	6	△1
投資その他資産	40	36	28	△8
固定資産合計	88	60	50	△9
資産合計	1,261	1,250	1,431	181

のれんの償却は完了

負債・純資産	2020年 12月末	2021年 12月末	2022年 6月末	前期末比
買掛金	10	12	18	6
未払法人税等	15	3	29	26
賞与引当金	2	2	5	2
工事損失引当金	-	1	-	△1
その他	113	88	125	36
流動負債合計	141	106	178	71
固定負債合計	8	9	12	2
負債合計	150	116	190	73
資本金・資本剰余金	1,164	1,165	1,153	△11
利益剰余金	144	145	230	84
自己株式	△201	△194	△175	18
その他	3	16	33	16
純資産合計	1,111	1,133	1,241	107
負債・純資産合計	1,261	1,250	1,431	181

株式報酬による処分

## (資産)

売掛金は、当期首より収益認識に関する会計基準を適用したことで、ロイヤリティ収入の売上計上月が早くなったことで、従来であれば四半期末時点で入金されていた売掛金が残高として残ることになり、118百万円増加しました。売掛金の入金遅延している等が原因ではなく、現預金も116百万円増加しており、手元資金の流動性に影響はありません。

## (負債)

負債合計は、未払法人税等の増加(26百万円)等により、前期末比73百万円増加の190百万円となりました。

2022年12月期  
第2四半期  
事業概要

## パソコン・デジタル家電向け組込みソフトウェア事業

- 第2四半期(1-6月)での売上高は、285百万円。
- VAlutionBD(4K)は、顧客製品の出荷数の回復が遅れ、期初計画を下回るが、その他のライセンス製品は、顧客による濃淡はあるが、概ね期初計画を上回って推移。
- 富士通パソコンFMV(2022年6月発売)に「スマホ写真&動画バックアップ」を提供開始、採用アプリ数は3アプリから4アプリに増加。

## AI映像解析・分析（建設DXサービス事業）

- 第2四半期(1-6月)での売上高は、40百万円。
- 「切羽AI評価システムサービス」が国土交通省の新技术情報提供システムNETISに登録完了。
- 「切羽AI評価システムサービス」が（株）竹中土木様で採用決定。
- 自社サービス採用企業数は、当期末目標10社に対して6社。（別途、契約内容レビュー中が2社有り）

## セキュリティ・プライバシー事業

- 第2四半期(1-6月)での売上高は、91百万円。
- 開発収入は概ね期初計画通り。
- 保守・サポート収入は期初計画を上回って推移。

# Kiwi Tech社との資本業務提携を発表 ～IoTソリューション事業の立ち上げ～

- 7月19日にキーウィ社(Kiwi Tech社の日本法人)に対し、第三者割当増資を実施。キーウィ社は当社の議決権13.60%を保有する第2位株主となりました。
- 資金調達額（増加する資本金・資本準備金）は194百万円となり、今後の成長投資に利用します。
- Kiwi Tech社のIoT機器・SaaSサービスの販売をコアとしてIoTソリューション事業を立ち上げ、事業ポートフォリオを拡大します。



- LPWA(LoRaWAN)対応ゲートウェイ、各種センサーおよびSaaSアプリケーションの開発・提供。



- Kiwi Tech社製品の国内販売。
- 顧客ニーズに合わせたSaaSアプリケーションのカスタマイズ開発・提供。

Kiwi Tech社：台湾にあるKiwi Technology Inc.

## 通期業績予想の上方修正について

(単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益（円）
前回発表予想(A)	875	20	20	4	2.52
<b>今回修正予想(B)</b>	<b>875</b>	<b>30</b>	<b>40</b>	<b>27</b>	<b>12.43</b>
増減額(B)-(A)	+0	+10	+20	+23	
増減率(%)	+0.0	+49.4	+99.6	+472.3	
(ご参考)前期実績	722	6	12	1	0.57

## 第3四半期以降の取り組み

- 新規顧客・販売チャネル向けの「デバイス間データ転送」の新製品を第3四半期末までに開発完了、10月サービスイン開始を目指す。収益モデルはサブスクリプション。
- Android™ TV OS向け新規機能ブラウザを第3四半期末までに開発完了を目指す。
- 自社建設DXサービスについて、新たに2社との契約完了を目指す。  
「切羽AI評価システムサービス」については機能拡張版Ver2.0のリリースを目指す。
- Kiwi Tech製品の販売を中心としたIoTソリューション事業展開の開始。

- ◆ 本資料は、2022年8月12日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社（連結子会社を含む）の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込み、または予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- ◆ これらの将来の展望には、様々なリスクや不確実性が内在しています。既知、もしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと保証することはできず、実際の結果が将来の展望と著しく異なることもありえます。
- ◆ 本資料中の数値は、単位未満切捨てで表示しており、その影響で表中の合計と一致していない場合があります。
- ◆ 本資料中に記載されている会社名および製品・サービス名等は、各社の登録商標または商標になります。一部、®、TMなどの記載を省略しております。

